

儲かる果物づくり実現を目指して

果樹研究室

令和8年度の主要な研究課題の概要

『ナシ「ひたちP3号」「ひたちP4号」の栽培管理技術及び貯蔵技術の開発』(R5~9)

県で育成したナシ新品種「ひたちP3号」「ひたちP4号」について、今後の産地導入推進を図るため、高品質果実安定生産技術を開発します。

『ナシ黒星病抵抗性品種の農薬使用量削減栽培確立』(R7~11)

黒星病抵抗性品種を活用した農薬使用量削減・省力防除体系を確立し、環境負荷の低減と農薬散布労力削減を目指します。

『ブドウ栽培における気候変動の影響評価と適応技術の確立』(R8~12)

近年、高温等により、着色不良、日焼け、縮果症などの生理障害が発生していることから、環境変化がブドウの生育・果実品質に及ぼす影響を評価するとともに着色向上や品質改善のための気候変動適応技術を確立します。



「ひたちP3号」



ブドウの着色不良

令和7年度の主な成果

ブラシ掻き込み式クリ収穫機等を利用した省力効果

クリ栽培では収穫作業が全労働時間の約4割を占め、特に収穫最盛期に労力が集中することが規模拡大の妨げとなっています。そこで、当研究所では、ブラシ掻き込み式クリ収穫機の省力効果及びイガ剥き機を組み合わせた機械併用体系の省力性を検証しました。その結果、機械収穫の収穫時間は、手収穫と比べて収穫期全体で68%となり、省力化できることを明らかにしました。

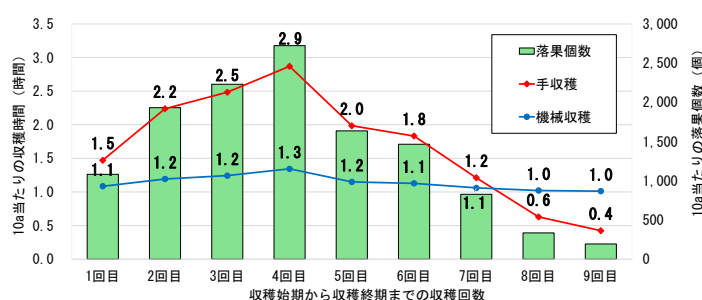


図1 収穫始期から収穫終期までの落果個数と収穫作業時間

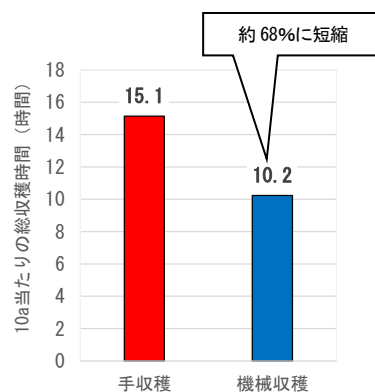


図2 手収穫と機械収穫の10a当たりの収穫時間

今後の方向

- 主要果樹（ナシ、ブドウ等）において、品種特性を活かした高品質安定栽培技術を開発します。
- 作業省力化・軽労化に向けた生産技術の開発や気候変動に対応できる生産技術を開発します。
- 関係機関と連携して現地検討会や現地試験を実施し、新品種や新技術の早期普及・定着を促進します。